

平成25年4月 紙・板紙需給速報

問い合わせ先：紙・板紙部（03-3248-4803）

（単位：千トン、％）

		生産		出荷計		国内出荷		輸出		在庫	(参考)輸入*	
			前年比		前年比		前年比		前年比			前年比
4月	紙・板紙計	2,230	99.8	2,265	104.4	2,182	103.3	83	142.6	1,911	141	67.2
	紙計	1,285	100.5	1,307	105.9	1,240	104.9	67	130.0	1,280	108	59.8
	新聞用紙	270	104.0	261	99.4	261	99.4	0	100.0	249	4	102.8
	印刷・情報用紙	724	100.2	746	108.4	695	107.1	51	128.4	778	100	57.7
	非塗工紙	185	99.4	191	107.1	182	106.7	9	116.3	262	13	64.3
	塗工紙	427	103.4	440	112.0	401	110.7	39	127.9	381	41	38.7
	情報用紙	112	90.8	115	98.2	111	96.8	3	186.6	134	46	97.8
	包装用紙	77	98.7	73	103.0	63	98.8	11	137.4	111	1	90.7
	衛生用紙	148	98.9	162	110.2	162	110.2			52	1	177.2
	板紙計	945	98.8	959	102.3	942	101.3	16	235.4	631	33	113.8
	段ボール原紙	758	98.4	770	102.7	756	101.6	14	263.7	407	8	84.5
白板紙	121	97.8	123	98.6	120	97.8	3	158.1	135	24	128.8	
(参考)累計	紙・板紙計	8,556	97.4	8,628	100.7	8,326	99.6	303	146.6	1,911	423	66.8
	紙計	5,010	96.0	5,105	101.5	4,858	100.1	248	137.1	1,280	329	60.1
	新聞用紙	1,079	99.3	1,065	97.8	1,064	97.8	1	55.3	249	13	76.4
	印刷・情報用紙	2,816	94.4	2,923	103.3	2,730	101.7	192	132.3	778	306	58.6
	非塗工紙	719	93.5	748	100.0	720	99.6	29	111.6	262	43	58.7
	塗工紙	1,668	96.7	1,725	107.3	1,573	105.1	152	136.1	381	124	40.0
	情報用紙	429	87.9	449	95.0	437	94.1	12	145.9	134	138	100.5
	包装用紙	293	98.3	288	103.1	248	97.2	40	165.6	111	4	98.9
	衛生用紙	578	97.2	586	100.7	586	100.7			52	3	152.4
	板紙計	3,546	99.3	3,523	99.7	3,468	98.8	55	213.6	631	93	110.0
	段ボール原紙	2,801	99.3	2,788	99.7	2,742	98.6	46	260.4	407	26	94.1
白板紙	478	97.2	476	98.2	467	97.9	9	117.0	135	65	116.9	

〔概況4月〕

紙・板紙の国内出荷は前年同月比3.3%増、前年5月以来11ヶ月ぶりの増加。うち、紙は4.9%（前年3月以来13ヶ月ぶり）の増、板紙は1.3%（3ヶ月ぶり）の増。主要品種は価格修正を打ち出した印刷用紙（非塗工紙、塗工紙）、衛生用紙を中心に増加。

紙・板紙の輸出は前年同月比42.6%増、8ヶ月連続の増加。うち、紙は30.0%（8ヶ月連続）の増、板紙は2.3倍（6ヶ月連続）の増。ともにアジア向けが増加。震災前の水準に対しては紙・板紙で9割弱の水準。

紙・板紙の在庫は前月比35千トン減、3ヶ月連続の減少。うち、紙は22千トン（3ヶ月連続）の減、印刷・情報用紙、衛生用紙が減少。板紙は13千トン（2ヶ月ぶり）の減、段ボール原紙を中心に減少。

〔主要品種〕

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比7.1%増、2ヶ月連続の増加。荷動きは商印向けを中心に堅調も、引き続き輸入からの振替や価格修正に伴う前倒し需要が影響。品種別には情報用紙を除き増加。輸出は28.4%増、塗工紙を中心に4ヶ月の連続の増加。

包装用紙の国内出荷は前年同月比1.2%減、6ヶ月連続の減少。落ち幅は縮小も、さらしの減少が影響。他方、輸出は高水準をキープ。

段ボール原紙の国内出荷は前年同月比1.6%増、3ヶ月ぶりの増加。荷動きは全般的には低調も、一部GW前の駆け込み、青果物向け等前年の落ち込みが影響。他方、白板紙の国内出荷は2.2%減、一般向けを中心に基調に変化なく、6ヶ月連続の減少。

(注) 1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。

2. 紙・板紙計には「その他の紙」、「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」が含まれる。

3. 輸入*は3月、1-3月

平成 25 年 4 月 パルプ 速報

問合わせ先：原材料部 (03-3248-4805~6)

(単位：千トン、%)

(3月)

品 種	生 産		自家用		販 売		在 庫		輸 入	
		前年比								
N-BKP	90	96.1	83	102.0	14	100.2	59	111.4	68	92.4
L-BKP	482	97.3	438	97.9	59	122.7	78	87.4	20	36.9
B K P 計	572	97.1	521	98.5	74	117.6	137	96.4	88	69.1
U K P	89	98.2	67	100.2	25	104.8	27	85.8	1	49.2
機械パルプ	55	101.0	56	101.4	-	-	3	110.5	17	2,883.9
製紙パルプ計	719	97.5	645	98.9	99	113.9	169	94.5	114	84.3

累計

(1~3月)

N-BKP	385	96.6	330	99.8	52	97.8	-	-	207	89.9
L-BKP	1,949	96.0	1,736	94.7	231	130.1	-	-	126	67.7
B K P 計	2,334	96.1	2,066	95.5	283	122.7	-	-	333	80.0
U K P	335	98.4	246	97.0	91	107.0	-	-	5	65.9
機械パルプ	222	94.2	222	94.2	-	-	-	-	39	88.6
製紙パルプ計	2,899	96.2	2,541	95.5	376	118.2	-	-	394	81.5

※製紙パルプ計には、上記品種以外を含む。

4月の概況

- ・製紙パルプの生産は、2.5%減で11ヵ月連続のマイナスとなった。品種別には、BKPは印刷情報用紙の生産が0.2%増となったものの、2.9%減と11ヵ月連続のマイナスとなった。UKPは1.8%減、主たる需要先である未ざらし包装用紙と段ボール原紙の生産がそれぞれ2.4%、1.6%のマイナスとなったことが響き、7ヵ月連続前年割れとなった。なお在庫については、BKPが11ヵ月ぶり、製紙パルプ計では1年ぶりの前年割れとなっている。
- ・販売は、BKPでは国内販売が26.0%増の55千トンと7ヵ月ぶりに5万トン台に乗ったこともあり、17.6%増と6ヵ月連続のプラスとなった。UKPでは、輸出が3ヵ月連続前年比増と堅調に推移した事が寄与し、4.8%増と14ヵ月連続で前年を上回った。

平成 25 年 4 月 度 パル プ 材 速 報

問合わせ先：原材料部(03-3248-4805~6)

(単位：千トン、%)

材 種	消 費 量		集 荷 量						在 庫 量	
		前年比	計	前年比	国産材	前年比	輸入材	前年比		前年比
針葉樹	415	98.1	422	101.0	315	105.9	107	89.1	457	83.9
広葉樹	898	98.7	859	85.7	129	108.0	730	82.7	1,151	93.8
計	1,313	98.5	1,281	90.2	444	106.5	837	83.4	1,608	90.8

1~4月累計

針葉樹	1,683	97.6	1,587	93.7	1,158	100.3	429	79.5
広葉樹	3,611	96.8	3,477	90.5	480	103.8	2,997	88.6
計	5,294	97.0	5,064	91.4	1,638	101.3	3,426	87.4

4月の概況

- ・消費量は、パルプ生産の前年比マイナスを受け11ヶ月連続の前年比マイナスとなった。また、数量でも前月より8万トン減少した。樹種別では、前月、久しぶりに前年比プラスとなった針葉樹が再びマイナスに転じ、広葉樹では11ヶ月連続のマイナスとなった。
- ・集荷量は、合計の前年比が前月のプラスから再びマイナスに転じた。数量でも128万トンと前月より13万トン減少し、4月の過去5年間では低水準だった2009年をやや上回る4番目の水準となった。輸入材が減少したことが全体を引き下げた。一方国産材は2ヶ月連続の前年比プラスとなり、針葉樹、広葉樹共にプラスと好調を維持している。4月の過去5年間では1番の集荷量となっており、前月に続き2ヶ月連続の1番となった。特に針葉樹の数量は2008年の平均値に迫る比較的高い水準となっている。
- ・在庫量合計は、前年比9.2%減と3ヶ月連続のマイナスとなった。前月に対しては消費、集荷共に減少となったが、集荷量の落込みが大きく、その結果として3.3万トンの減少となった。維持月数は前月に続き1.2ヶ月となった。